号外　令和５年度　第１０号

Tobu通信

東部教育局
東教発 Ｒ５．１２．１１

特別支援教育コーナー

主体的な取組を支援する授業づくりのポイント ～特別支援学級編～

エキスパート教員から学ぶ

特別支援学級に在籍している児童生徒は、障がいによる学習上又は生活上の困難さから、成功体験が少なく主体的に学習に向かう意欲が十分でない場合があります。エキスパート教員（認定分野：自立活動）の鳥取市立醇風小学校 松本千恵先生の授業からは、児童生徒の主体的な取組を支援するための授業づくりのポイントを学ぶことができます。今号外では、校外学習に向けた松本先生の授業を紹介します。

今回の授業づくりでは、どんなことを大切にされたのですか。

〔松本千恵先生〕

学級には6年生7人が在籍していますが、卒業後、異なる学校に進学する子どもたちがいます。

子どもたちが卒業後も、一緒に過ごしてきた友だちのことを思ったり、会いたいときに待ち合わせして楽しい時間を過ごしたりできるとよいなと感じ、そのために必要な内容を考えながら学習計画を立てました。

松本先生は、授業づくりに向けた思いのもと、子どもたちにどんな力を身につけていくとよいのか、目の前にいる子どもたちの実態から、必要な指導・支援を考えられていました。

タブレットで天気を調べます。「くもり一時雨」「降水確率」「最低気温」など天気に関する言葉も確認。当日の天気を詳しく知ることで、必要な持ち物や服装について子どもたちがよく考えていました。

考えるには、子どもにとっての必然性や考えるための情報が必要。子どもの思考に沿いながら、学習計画を立てる。

（校外学習の）
め 持ち物について話し合ったりめあてを決めたりしよう。

「鉛筆を置いてください。」子どもが気付くのを待ちます。その後、気付いた子どもを見てうなずくと、「いっぱい書いたね。」と声をかけられました。松本先生は、子どもの頑張りもよくフィードバックされていました。

指示したことが伝わっているかを確認。できたらすぐに評価をかえすことで、子どもは自信がもてる。

子どもの頑張りや意欲を適宜フィードバックする。

「なぜ、折りたたみ傘がいいの。」尋ねられた子どもたちは「え!?」と戸惑いながらも、友だちの意見を聞いて納得。松本先生は、「なぜ?」と子どもによく尋ねられていました。

「なぜ？」と考えることで理解が深まり、さらに気付きや考えが広がる。

言ってできたことも、意識してほめるようにしています。

子どもたちは、必要に応じてこれまで学習したプリントを綴じた「ファイル」も確認しながら、自分の考えを伝え合いました。

既習事項を確認したり次の学びに活用したりできるように、学んだ足跡を残す。

ピンポ～ン♪

発言の準備ができたら鳴らして使います。発言の緊張感を和らげるとともに、発言する人への意識を高める効果があります。

松本先生の授業は、思わず楽しくなる遊び心が満載です。**１２月１４日（木）は、エキスパート教員公開授業**があります。ぜひ参加ください。

特別支援学級の授業づくりでは、一人一人の障がいによる学習上又は生活上の困難さを把握し、子どもたちが主体的に学びに向かうよう様々な指導・支援の工夫が必要です。松本先生には２月９日（金）東部教育局主催『かたりば』でもお話をいただきます。先生方の参加をお待ちしています。※『かたりば』はＱＲコードをご覧ください。